

第7回CS会

2 報告

(1) 学校の様子

①児童の様子

ア 冬季休業中大きな事故なく、新学期を向かえた。

イ 4年保護者ボランティア、1月も依頼。2月以降は5年生に向け学校だけで体制を整える意向

ウ 3学期はじめに席書会。来週から展示会

エ 6年中学に向け私立受験始まる。今月7日のケヤッキールーム運営会議で利用児童の進学が気になるという声があった。児童・保護者の思いを受け止めるとともに、児童の意向を尊重したい。

②学校の様子

ア 令和8年度教育課程 現在作成中

イ 3学期はじめに教職員のいじめ研修を行った。いじめの定義について学校によって認識の差がある。また教員ごとの認識の違いもある。件数が多い学校が指導の行き届かない学校ではなく、軽微なものまで丁寧に対応しているという見方である。

3桁を超えている学校に問い合わせをした。本校児童の実態と大きく変わらない。ささいなことでも子どもが教員に伝える雰囲気ができ、教員も即時対応できている。そのため重大事態につながるような案件が少なくなった様子が伺える。

ウ 第三回ケヤッキールーム運営会議、学校の不十分な対応についての対処として居場所づくりができた。

エ 「子どもの心と体を守る指導」12月に全クラスで実施。指導したことで終わることなく、指導後の成果と課題を出す。実施時期等も今後検討していく。

オ 情報モラル教育の取組実施を進めていく。

(2) 今後のPTAのあり方について

①運営のボランティアは続けていく。

②PTAは授業や行事のボランティアなど学校から依頼されたことだけをサポートする。これでいいのか。賛否両論。次回のPTA運営会議で話を詰めていく予定である。丸4年はしっかりとした活動ができていないので方向性をつくる。より多くの方に参加していただきたいという意向からアンケートを実施する。「学校サポート」からより前に出ていく活動。子どもたちのために学校と共にできることを探っていく。4年に対して学校からの保護者ボランティアの依頼に協力して参加する形はできた。

[意見交換の内容]

- ・新1年生保護者説明会ではPTAの活動について話す。以前の義務的な活動ではないことを伝える。保護者の横のつながりも大切にしていきたい。

- ・「ママ友」も今は必要ない様子がある。SNSでつながっている。保護者も今と昔では変わっている。今に合わせる。「PTA」という言葉もよくないのでは。
- ・「学校を支える保護者の会」はどこの学校にもある。CS会としては学校が困らない形で保護者も関わってほしいと思っている。
- ・今までの三小とは異なるPTAの形にしていく。今後6年くらいの時間をかけて、PTAの再構築をしていく。
- ・地域にも発信することが三小としては大事。CS会としても支えていく。
- ・PTAは保護者の認識が変わり、なくなったと思っている。当日のボランティアなどはあるようなので、よかったと思っている。保護者がもっと入り、学校や教員についての理解を促すこともよい。より積極的に関わってほしい。土曜日にクラス会などを開いて子どもと共に保護者が集まるようなこともよい。
- ・保護者も手伝いたいと思っている方はいる。現実としてボランティアの募集に参加する方もいる。義務的な係、委員となると参加が減るので、できる時に参加することで一緒に学校をつくろうと伝えていきたい。昔どおりの組織は難しいと思うが何か形にしたい。

協議

①学校経営方針

学校評価の回答は60%ほど。昨年度からの大きな変化はなかった。

確かな学力の育成から豊かな心の育成に変えたところが今年度の大きな変更点であった。人の気持ちを考えているかという点では肯定的回答が児童80%以上・保護者90%以上に対し、教員は70%台。評価に乖離がある。この点を考えて次年度の方針を立てた。

認知能力に対し、コミュニケーションを図る「非認知能力」に重点を置く。そこで授業でも対話を大切にし、多面的・多角的に見ていきたい。

一点目は主体的対話的な学びの実相。二点目は多様性の包摂（ほうせつ）。令和10年度からではなく、今から重点を置いてやっていきたい。本校は通級に通う児童の割合が近隣校の中でも高い。その子どもたちの環境整備、この子たちのことを考える学校、丁寧に関わる学校にする。3年間やってきた学年・教科担任制の形は更に改善していく。

給食試食会が見送られて6年経つ。コロナで無くなった。PTAの保護者ボランティアと協力して実施していく。一緒に学校をつくる一つの手段になるのではないかな。きっかけとして働きかける。

- ・以前は1年生の委員がやって試食会をしていた。
- ・子どもたちが食べているものを味わって共に考えていく、つくっていくきっかけとしたい。

〔意見交換の内容・感想〕

- ・これまで積み重ねてきた一つの形。子どもの声を大切にしたい一つの形。拾い上げて、形にして、どう子どもを育てていくのかということ。
- ・「子どもが主語に」が大事なこと。子どもを中心に、どうしたら楽しく過ごせる学校になるのかを教員と保護者が協力していくことが書かれているものと捉える。健全もまちづくり協議会も協力していく。
- ・多様性の包摂というのが、いろいろな児童がいるので先生方も大変だと感じている。全てにきめ細や

かな対応をするのは、あまりにも幅広すぎて大変であろう。できること、できないことがどうしても出てくるだろうと思う。これは外さないということをぜひ実行してほしい。

- ・多様性の包摂の受け皿がこの3年でできていると感じている。ケヤッキールームが一番大きなこと。様々な人が入っており、このサポートについては増えている。これまで考えていたことが最終目標に向かっていると感じている。学力が言われがちであるところ、昨年度大きく変えた豊かな心の育成という部分を尊重する。CS会としてもサポートしていきたい。
- ・今までやってきたことの延長、更にということであろう。地域でもサポートできることは言っしてほしい。できるだけ協力したい。これを校長先生から先生方に伝えてほしい。
- ・児童・保護者と教員との乖離のある部分について、大本になる母数が違うのでその差はあると思う。なぜそういう乖離が起こったのか気になる。教員の評価は、日頃の児童との関わりの中から出てきた意見か。人の心を大事にしていないという児童がいれば保護者は叱ると思う。ギャップが気になる。
- ・先生方は大変な場面に直面することがあるので、その様子からこのような意見の乖離が生まれたのでは。
- ・4年生に関わっている中で子ども同士はよいが先生を大切にしていない場面がある。先生も人である。
- ・保護者と先生の関係、教職員同士、教員と児童。校長としてなにか感じることは。
- ・何かあれば学年会をしたり、オンライン朝会の校長講話で話したりすることもある。
- ・先生に対して言っはいけないことを言った児童がいた。「人権侵害」という子どもの声も上がっていたのでうれしかった。お互い同じ人間である。それぞれに人権がある。それが大事と思う。継続をしてほしい。
- ・学校全体でパワハラ、カスハラの人権教育を丁寧に粘り強くやっていく。子どもにはもちろんだが、他校の例として保護者に対してカスハラについての注意喚起の手紙を出している学校もある（PTA会長名で）。ここだけでやっていてもだめ。教員がカスハラにただ耐えて我慢しなければならぬことではないと伝えていく。教員としてもうれしい様子だった。PTAとしての大きな仕事であると思う。

②ケヤッキーとのたき火の集い

乾燥と強風が心配されている中、たき火の集いは心配である。調布でも連日サイレンが鳴っている。この話題をこの場で話すこともはばかれる。山梨の山火事延焼のニュースがある中、この企画はどうか。昨年度は12月に実施した。今年度は2月である。時期的なことも含めて検討したい。

〔意見交換の内容〕

- ・どうしてたき火になったのか分からない。経過はどんなものだったのか。特にたき火に意味がないようであれば、たき火でなくてもよいのではないか。
- ・火を囲むとリラックスでき、話しやすい雰囲気がつくられるという運営委員の話から生まれてきた。「ケヤッキーとのつどい」ということもやっていたところから、知らない人同士も話しやすいからなのではないことが発端であった。そういう意味合い。
- ・この状況でのたき火は厳しいのではないか。無理してやることではない。

- ・昨年度参加し、会自体はよかった。時期を変える、または火でなくてもよい。座ってしまうと隣の人との話になり、多くの方と話すということではなかった。寒かった。
- ・今年度は「たき火」は取りやめ。たき火はなし。
- ・先生方と話せる機会はなかなかない。個人的には「だんらん」はあってもよいと感じる。何かできればやるという形にする。学校と話をしながら違う形で検討する。

③校庭のグリーンサンド

砂埃がひどい。児童の体にもよくない。CSとして要望書をあげる。調布中、飛田給小など、近隣校には入っている。地域で長くかかわっている方々にも伝えていただきながら進めていきたい。今申し出ても予算が決まってしまうが、予算が余ったときにやってくれる可能性もある。あげていくことに意味がある。

④民生委員会から

他市との研修が昨年あった。テーマは不登校支援。どこの市でもSSWとのつながりがあり、国立、杉並、あきる野市等、毎月交流している自治体もある。調布は全くない。学校とは学校訪問を年1回やっている。可能であれば、学校以外にSSWとのつながりを持ちたい。始めは年1回でもよい。学校としてはどうか。顔見知りになっておくことが大切ではないか。

各地区で各校のSSWを呼んでという形。学校としてはどうか。実施する場合は教育委員会に届けるのか。

〔意見交換の内容・感想〕

- ・主任児童委員から意向を伝えればできるのではないか。三小のSSWということならば日程調整は大変ではないが、他校も含めてとなると大変ではないか。
- ・規模感、実施方法を検討する必要がある。まずは教育委員会に問合せる。

〔感想〕

- ・〔学校経営研究室〕学校の経営に対して、CS委員が運営に関わるという姿があった。活発な意見のある熟議であった。三小のような形が他校にも広がることを願っている。

次回：2月25日最終回CS会